

第3回検討会の振り返り



2026年1月

第3回検討会：主なコメント（抜粋）

評価基準・対象、情報開示の媒体、情報開示基準との接続に関するコメントを踏まえ、評価基準案をアップデートし、募集要領や申請書式を検討

• 評価基準について

- ✓ 「指標」と「目標」を区別すべき（例：所得＝指標、〇%増＝目標）
- ✓ 横並び比較は現実的でないため、指標設定は多様性を認めるべき
- ✓ ロジックモデルの品質評価の方法・基準を明確にする必要。ガイダンスに記載される既存25のロジックモデルと照らし合わせ、学習機会として活用できるように
- ✓ 指標の適切性評価において、アウトプット～インパクトの論理整合性を判断するガイダンスが必要

• 評価対象について

- ✓ 金融機関などの間接貢献を含むべきではないか

• 情報開示の媒体について

- ✓ 中小企業も対象になるため、「IR資料」「プレスリリース」に加え、「ウェブページ」も認めるべき
- ✓ ビジョン・ミッションだけでなく、中期経営計画など具体的文書も対象に含めてよい
- ✓ 提出資料は「出せるもの・出せないもの」があり、公表範囲を踏まえ定義すべき

• 情報開示基準との接続について

- ✓ 証明書の申請に向けた検討を通じて、開示内容についても改めて考える機会が得られることが企業にとって有意義
- ✓ SSBJではGHG排出量などが中心的な指標となるが、証明書では気候変動への適応・災害レジリエンスの向上等についても多様な指標を検討すべき
- ✓ 「インパクト自体」だけでなく「インパクトを増やすための指標」も許容するかを明確化する必要

第3回検討会を踏まえた対応

第3回検討会でいただいた助言を踏まえ、以下5点を対応

1. 評価の目的・位置づけに関する記述の修正（本資料 P.13）
2. 評価基準案（IMMプロセス）の修正（同 P.14-16）
3. 募集方法・運営体制・発行方法の検討（同 P.18-26）
4. 証明書の活用方法・対応について、大企業へのヒアリング（同 P.28-29）
5. インパクト可視化ガイダンスの改訂内容に反映（同 P.31-32）

■ 評価の目的

- ✓ 企業等による取組や継続性を適正に評価すること
- ✓ 上記によって企業等の資金調達等のインセンティブに繋げ、より多くの企業等による農山漁村への参入・継続的取組を後押しすること

■ 評価基準の位置づけ（上記目的を実現するための要件）

- ✓ 証明書の評価基準は、公正性や公平性を担保するために、合理的で厳正な基準とする必要がある
- ✓ 資金調達等への接続を後押しするために、定量的で比較可能な指標設定を含める必要がある
- ✓ より多くの企業等により農山漁村への参入・継続的取組を後押しするために、企業等にとって実現可能であり継続的に管理可能な基準とする必要がある

■ より多くの企業等による参入・継続的取組を後押しするために考慮すべき点

- ✓ 評価を学習や改善のプロセスとして位置づけ、評価後も定期的なモニタリングの実施について検討する
- ✓ 個社による取組だけでなく、他の企業や自治体、生産者等との連携によるインパクトの増加やシナジーの創出を促すために、学習/対話の機会やコミュニティ形成の場の設計について検討する

インパクト証明書の評価基準案

SDG Impact Standards・ロジックモデル・IMP等を参考に、農山漁村のための評価基準案を策定

評価基準案

第3回検討会以後の修正箇所を赤字で記載

1. 目標	2. 戦略	3. 指標	4. マネジメント
アクティビティから期待される影響を企業の方針として掲げる	マテリアリティ等の達成に至るロードマップを策定	戦略を踏まえ、モニターすべき指標を定める	指標をモニターしながら戦略を実行
a. 農山漁村の課題解決に向けた継続的な取組・インパクト創出が、企業の経営方針に含まれているか b. 農山漁村の課題解決に向けた継続的な取組・インパクト創出が、経営の重要課題として位置づけられているか	a. 目標実現に向けて、ロジックモデルのアウトプット・アウトカム(短期～中長期)・インパクトを設定しているか(評価方法を定める必要) b. 企業の強みや独自性が、農山漁村の課題解決に向けたインパクト創出に繋がっているか?(トレードオフ/シナジーを考慮) c. 多様なプレイヤーと連携し、農山漁村の課題解決に向けたインパクト創出に取り組んでいるか	a. 戦略に沿って、合理的な指標(短期～中長期)を設定しているか (アウトプット/アウトカムは定量的な指標/目標を記載、インパクトは定性的な記載で可) b. 指標の測定・管理のためのフレームワークを構築しているか	a. 指標の管理をガバナンス体制に統合しているか b. 農山漁村における取組や指標の推移、見込について、外部に開示しているか c. 目標を達成できているか、できていない場合は改善のための施策を策定しているか(更新時)

合計10の評価基準案を策定
(詳細次頁～)

インパクト証明書の評価基準案（1/2）

1. 目標の設定、2. 戦略の策定に関する評価基準案を詳細化

第3回検討会以後の修正箇所を赤字で記載

評価基準案		充足要件案	提出物案 ※各評価基準への該当箇所を明示すること	審査タイミング案	
大分類	小分類			初回	更新時
1. 目標	a. 農山漁村の課題解決に向けた継続的な取組・インパクト創出が、企業の経営方針に含まれているか	・ 農山漁村の課題解決に向けた継続的な取組・インパクト創出が、企業のビジョン・ミッション等に明記されていること	・ ビジョン・ミッション等に関する資料	✓ (オプション要素)	✓ (オプション要素)
	b. 農山漁村の課題解決に向けた継続的な取組・インパクト創出が、経営の重要課題として位置づけられているか	・ 農山漁村の課題解決に向けた継続的な取組・インパクト創出が、企業のマテリアリティやビジョン・ミッション実現のための重要事項等として明確に位置づけられていること	・ マテリアリティ・目標/KPIに関する資料 (適宜、中期経営計画、有価証券報告書等を参考資料として提出)	✓	✓
2. 戦略	a. 目標の実現に向けて、ロジックモデルを適切かつ具体的に設定しているか	・ 農山漁村の課題解決に向けた継続的な取組によるアウトプット・アウトカム（短期～中長期）・インパクトが設定されていること（定量的、客観的であれば望ましい）	・ ロジックモデル	✓	✓
	b. 企業の強みや独自性が、農山漁村の課題解決に向けたインパクト創出に繋がっているか？	・ 企業の強みや独自性を活用した取組により、農山漁村の課題解決に向けたインパクト創出に繋がっていることについて、合理的に説明されていること	・ 左記に関する説明（定性的な文書で可）	✓	✓
	c. 多様なプレイヤーと連携し、農山漁村の課題解決に向けたインパクト創出に取り組んでいるか	・ 行政・地域団体・企業・研究機関との連携体制が文書化されていること	・ IR・プレスリリース ・ 基本合意書・協定書 ・ 会社のHP	✓ (オプション要素)	✓ (オプション要素)

インパクト証明書の評価基準案（2/2）

3. 指標の設定、4. マネジメントの実践に関する評価基準案を詳細化

第3回検討会以後の修正箇所を赤字で記載

評価基準案		充足要件案	提出物案 ※各評価基準への該当箇所を明示すること	審査タイミング案	
大分類	小分類			初回	更新時
3. 指標	a. 戦略に沿って、合理的な指標を設定しているか	・ 農山漁村の課題解決のためのインパクト創出に向けて、短期～中長期の指標が設定されていること	・ アクティビティに関連する指標一覧（後頁にて例示）	✓	✓
	b. 指標の測定・管理のための管理方法・体制を構築しているか	・ データ収集～測定方法・頻度、管理体制が構築されていること	・ データ収集～測定方法・頻度に関する資料 ・ 指標の管理体制に関する資料	✓	✓
4. マネジメント	a. 指標の管理をガバナンス体制に統合しているか	・ インパクト管理のための経営陣が参画する会議体が設定され、責任者/担当部門が明確化していること	・ ガバナンス体制・委員会に関する資料(会議体、担当部門、アジェンダ等)	✓	✓
	b. 農山漁村における取組や指標の推移、見込みについて、外部に開示しているか	・ 農山漁村の課題解決のための継続的な取組・インパクト創出に向けた目標の達成度・達成見込みについて、統合報告書・インパクトレポート等で開示されていること	・ IR資料（例：統合報告書、ESGレポート、インパクトレポート等） ・ プレスリリース ・ ウェブサイト該当ページ	✓ (初回は開示予定でも可)	✓
	c. 目標 を達成できているか、できていない場合は 改善のための施策 を策定しているか	・ 達成状況に応じてPDCAを実施していること（ 目標 未達の場合は、改善のための施策を策定していること）	・ PDCA、 目標 未達の場合の改善策に関する管理方法 についての資料	✓	✓